

## 歯学教育研究開発学分野・歯科総合診療部紹介

新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯科医学教育研究開発学分野

新潟大学医歯学総合病院 歯科総合診療部 藤井規孝

おそらく、毎号歯学部ニュースをご覧下さっている皆様方にとって、「歯科総合診療部」は初めて目にされる名前ではないように思います。なぜなら、過去の歯学部ニュースにおいて、学生さんや研修歯科医の先生方など多くの方が歯科総合診療部について紹介する文章を書いて下さっているからです。

しかしながら、このような形で正式にご紹介申し上げるのは、少なくとも私が歯学教育研究開発学分野・歯科総合診療部を担当させていただいてからは初めてです。特に病院内では「歯科総合」という専門性に関連しない名前がついているため、どのような治療を担当するのかよくわからない方もいらっしゃるかもしれません。また、「歯学教育研究開発」という名前も他の分野とは異なり、どのようなことについて研究しているのか今ひとつわかりにくいかもしれません。この度原稿をご依頼いただき、これらの疑問をお持ちの方にとって、少しでもお答えになるような紹介ができれば幸いと思いながら文章を作成しております。歯科総合診療部と歯学教育研究開発学分野の関係

は、歯学部の分野とは異なり少々複雑なのでまずはそれぞれについてご紹介致します。

歯科総合診療部は、平成13年に医歯学総合病院の中央診療施設部門の1つとして設置されました。平成18年度より歯科医師臨床研修制度が必修化されたことをご存じの方は少なくないと思いますが、他大学同様、新潟大学においても歯科医師臨床の運営・管理・統括を担当する部署としてこの業務を担当しています。さらには、歯学部臨床実習の管理・統括にも関係しております。現在、歯学部卒業前後の学生、研修歯科医の治療技術の低下が問題視されており、歯学部学生が行う臨床実習（担当医の1人として現場に出て歯科治療を学ぶ歯学部の講義）、臨床研修（国家試験に合格し、免許を取得した新米の歯科医師が4月から行うon the job training）の有機的な接続を図ることの重要性が示されていますが、歯科総合診療部はある意味この役割を任されていると思っています。新潟大学歯学部、医歯学総合病院歯科における臨床実習、臨床研修の設備は大変充実しており、臨床教育に大変熱心で協力的な多数の教員の



スタッフ写真：教員



スタッフ写真：レジデント・医員・大学院生

先生方がいらっしゃいますので、他大学が決して真似ることのできない環境が整っています。そのため、学生さんや研修歯科医の先生方に説明する際、「このような恵まれた環境で勉強できることに感謝してほしい」と常々口にしてはいますが、あらためて紹介文を作成すると、これはそのまま歯科総合診療にも当てはまるような気がしております。

一方、歯学教育研究開発学分野は平成26年度に医歯学総合研究科に新しく設置されました。この分野には2名の教授が配置され、歯科総合診療部の教授と講師1名がこの分野の所属となり、歯科総合診療部を併任することとされています。また、歯学教育研究開発学分野には特任助教2名が設置され、そのうち1名が歯科総合診療部の業務にも加わっています。歯学教育研究開発学分野は、現在のところ臨床教育や学生・交換留学生の短期留学プログラムの管理運営などに関係していますが、昨今歯学教育の充実・改善が叫ばれるようになっていきますので、将来的にはさらに様々な業務を担当する可能性を秘めているように思われます。

以上、簡単にご紹介申し上げましたが、ここから先は歯学教育研究開発学分野、歯科総合診療部の両方を合わせて、私共が担当させていただいている部分について具体的に説明致します。

#### 診療および院内での担当業務について

診療は6名の教員スタッフと7名のレジデント（後期研修歯科医）、医員、大学院生が行っていま

す。

教員にはそれぞれに保存、補綴系処置という専門領域があるため、レジデントと呼ばれる後期研修歯科医や医員、大学院生は必要に応じて教員に相談しながら自己研鑽を積んでいます。研修歯科医や学生にとって、特に若手のスタッフは身近にいる先輩に相当しますので卒後の進路などいろいろな相談にのることもあるようです。

また、歯科総合診療部は本院歯科医師臨床研修の単独型プログラムを担当しており、教員は当番制で研修歯科医が行う治療の指導にあたっています。本院臨床研修単独型プログラムは研修歯科医を担当医とする診療参加型で行うことを最大の特徴としており、研修歯科医は指導歯科医の監督の下、それぞれの担当患者さんを治療します。研修必修化以降、このプログラムでは毎年25名前後の研修歯科医が研修を行っていますが、研修希望者（研修を希望する学生など）の研修先はマッチングという全国統一の方法で決定されるため、必ずしもすべての研修歯科医が本学の卒業生であるとは限りません。過去、国公立、私立の別を問わず、さまざまな大学を卒業した歯科医師が研修を行ってきました。本院各専門診療科と院外の協力型施設で構成される複合型プログラムも含め、これまでに研修を修了した数百名の研修歯科医は、研修期間中、本院臨床研修の理念である「信頼される歯科医師」になることを目指してがんばってきました。おそらく、今現在もそれぞれの活躍の場において引き続き自己研鑽に励んでいることと思います。



単独型プログラム歯科医師臨床研修



単独型プログラム歯科医師臨床研修

さらに、歯科総合診療部は本院歯科を初めて受診される方に対し、最初にお話しをうかがい必要な検査をさせていただいた後、最も相応しい治療を行う専門診療科へご案内する予診業務を担当しております。予診は歯科総合診療部スタッフと単独型プログラムの研修歯科医が担当し、臨床実習中の学生がサポート（口腔内診査の筆記や専門診療科受付、X線写真撮影への案内）していますが、新来患者さんに初めてお目にかかる役割を担当しているため、親切・丁寧な対応を心がけています。臨床実習、臨床研修の大きな目的には歯科医療を実地に学ぶことが含まれますが、直接治療を行わない予診業務も研修歯科医や学生にとって貴重な勉強の場になっていると思います。予診業務を行った際、臨床実習や臨床研修にご興味やご理解を示して下さい方には、本院には教育病院としての役割があることをご説明申し上げ、ご協力願うこともあります。

### 教育について

歯学部卒後の臨床研修については、前述した単独型プログラムの実践に加え、新潟大学医歯学総合病院における歯科医師臨床研修の運営に関するとりまとめを担当しています。臨床研修の準備は研修開始前年度の6月から参加者（研修希望者と研修施設）がマッチングに参加することによって始まります。マッチングに関する詳細は「歯科医師臨床研修マッチング協議会（<https://www.drmp.jp/index.shtml>）」に掲載されていますので、興味がおありの方は是非一度ご覧下さい。

平成27年	歯学部歯学科		研修関連	
	1月	臨床実習		
	↓	↓	6月初	マッチング・新大研修説明
			6月末	マッチング登録開始
	7月末 ～8月	夏期休業	7月末	マッチング登録締切
	↓	↓	8月	施設見学・採用試験?
			9月初	希望職位登録開始 新大採用試験
	10月	臨床実習引き継ぎ	10月中	希望職位登録締切
	↓	↓	10月末	マッチング結果発表 (再マッチング開始)
	11月	臨床実習引継終了	11月	新大Bコース説明会
	12月	臨床実習修了判定		新大群内マッチング(～12月)
平成28年		試験勉強…	1月	新大群内アンマッチ者再マッチング

図1 歯学科6年生の予定

マッチングに参加登録した後、研修希望者（学生）は「D-REIS (<https://d-reis.mhlw.go.jp/common/ad0.php>)」という歯科医師臨床研修プログラム検索サイトで希望するプログラムを探し、それぞれのプログラムに申し込むために各研修施設が課す採用試験を受験します。通常、研修希望者は複数のプログラムに申込を行い、研修施設には定員がありますので、お互いに採用希望の順位付けを行ってシステムに登録し、この組み合わせをコンピュータで処理して決める方法がマッチングです。新潟大学歯学部6年生の場合、図1のように臨床実習を行いながら、臨床研修の準備を進めることとなります。これらは歯学部卒業前に行われますので、昔に比べると今の歯学部6年生はかなり忙しい1年を過ごしています。学生だけではなく、研修歯科医を受け入れる研修施設にも、学生と同様の準備や手配が求められますが、歯科総合診療部はこれらの業務（各種説明会や採用試験の開催準備や協力要請）を担当しています。



診療参加型臨床実習



早期臨床実習1

一方、歯学部 of 学生教育については、早期臨床実習、臨床実習の運営や管理を担当しています。歯学部歯学科および口腔生命福祉学科の1年次学生が履修する早期臨床実習Ⅰは、歯学部入学直後の学生が新来患者さんの案内や治療見学を行う、臨床実習中の6年次学生に口腔内診査や歯ブラシ指導を受ける等、体験型の実習で自らの将来像を意識することができる刺激的な内容で実施されています。歯学科2年次学生が履修する早期臨床実習Ⅱは歯学科の基礎系科目を紹介する講義と臨床現場の見学を並行して行い、歯科医療は技術だけではなく、専門的な基礎知識の上に成り立っていることを感じてもらえる内容で行っています。その後、3、4年次にさまざまな専門科目を履修した学生は5年次より臨床実習を始める準備に入ります。本学では通称“ポリクリ”と呼ばれる臨床予備実習のコーディネートや、5年次10月から6年次10月までの1年間、行われる臨床実習の管



診療参加型臨床実習



臨床研修・実習診療スペース

理・運営（マネジメント）も私達の担当です。本学の臨床実習は、学生を担当医の1人と位置づけて行う診療参加・実践型で運営されており、主治医制度や臨床実習実施委員会、ヘッドインストラクターの設置、電子ポートフォリオの利用など、全国的に見ても誇れる体制が整備されています。臨床実習中の学生は診療室においては、ほぼ歯科医師として行動することを求められます。歯科総合診療部は臨床実習、臨床研修と診療スペースを共有していますので、この恵まれた環境で彼らが日々頼もしくなっていく姿を目にすることができます。

### 研究について

専門分野がそれぞれにあるため、個々の教員は各専門分野の領域で研究活動を行っています。教員、大学院生は臨床教育を主なテーマとする研究にも参加しています。歯科医師は技術職であり、治療技術にも言葉や文章では学習者に伝えにくい要素が含まれます。例えば、処置中に術者である歯科医師が見ている場所、特に焦点を当てているスポットなどは当人にしかわかりません。また、治療時に様々な力を加える際、手が滑らないようにレスト（固定源とする指）をおく場所や患部を診る角度、患者さんと自分の体勢など実に様々な要素が絡み合って最適な治療を行うことができるようになります。現在、このような表現しづらい領域の技術要素を動画で捉える、目に見えない治療時の力加減を可視化するなど、効果的な臨床教育方法の開発に着手しています。これらの



歯学科46期生（6年次学生）

研究は、診療参加・実践を旨とする本学臨床実習、臨床研修に大きく貢献できるのではと考えているところです。

以上のようにご紹介申し上げれば、歯学教育研究開発学分野／歯科総合診療部は、決して私達ス

タッフの努力だけではなく、歯学部や本院歯科のさまざまな部署の皆様にご理解いただきながら役割を果たしていることがご理解いただけるものと思います。今後とも当分野／診療部をどうぞよろしくお願い致します。

